

きれいに暮らす

奈良県スタイルジャーナル

VOL.

13

2020 OCTOBER

循環型の
生活スタイルの
普及を目指して



奈良市立 月ヶ瀬中学校

地域で四半世紀受け継がれる 「アルミ缶回収活動」

生徒のアイデアから生まれ、全校生徒、先生方、地元の団体を巻き込んで、25年目を迎えたボランティア活動。それぞれの立場で「自分にできること」を考えつつ、環境と福祉のために取り組む姿が、地域に元気を与えています。



月ヶ瀬中学校 生徒会会長

はたや かいと
畑家 快翔さん



月ヶ瀬中学校 生徒会副会長

にしわき はるな
西脇 春菜さん



ボランティア団体「愛歩21」
月ヶ瀬小中学校 学校運営協議会委員

とくや しん
徳家 眞さん



月ヶ瀬中学校 教諭

ほりぐち はるひで
堀口 温秀さん



ボランティア団体「愛歩21」
元月ヶ瀬中学校 校長

にしうら のりみつ
西浦 範光さん



つぶしたアルミ缶でいっぱいのコンテナは
重さ約10kg

「アルミ缶で車椅子を！」
生徒のアイデアが
環境活動の種まきに

奈良市の北東端に位置する月ヶ瀬地区。関西屈指の梅の名所「月ヶ瀬梅林」があり、毎年見頃には、県内外から多くの観光客が訪れます。そんな風光明媚な地にある月ヶ瀬中学校が行う環境活動は、とてもユニーク。平成8年度から生徒会の取り組みとして始まった「アルミ缶回収活動」です。生徒全員が参加し、地域住民の協力も得て活動を展開しています。

きっかけとなったのは、車椅子生活をする女性が、空き缶を集めて換金し、車椅子を寄贈しようと奮闘する姿を紹介したビデオ。それを見た当時の生徒会長が「自分たちもやるう」と話し合い、『アルミ缶で車椅子を！』を合い言葉にアルミ缶集めをスタート。まずは生徒たちの家にある空き缶の回収から

始め、その翌年、リサイクル工場に引き取ってもらう流れをつくり、活動が本格化。同時に、「この活動をもっと広めよう」と、地域の人たちに声をかけたことが、現在の基盤となりました。

地域ぐるみの環境ボランティア
収益金で福祉器具を施設に寄贈

毎月の活動は、校区内の家庭に配る回収用網袋を、生徒たちがゴミステーションごとに配布することから始まります。そして第一月曜日には、出されたアルミ缶を、地域のボランティアグループ「愛歩21」と教員で回収。このアルミ缶を空き缶用プレス機等で、ひたすらつぶしていくのが生徒たちです。つぶした缶を後日、ボランティアのメンバーと教員で、伊賀市のリサイクル工場へ搬入するという流れが確立されています。

取材当日は猛暑の中、熱中症対策をしながら元気に作業を進めました。プレス機の台数は限られているため、手の空いた生徒は足でも空き缶を踏みつぶし圧縮します。この日の回収量は、普段より少なめの160kgでした。

アルミ缶の収益は全て、車椅子をはじめとする福祉器具の購入に充てられます。活動開始からの24年間で、132件を地域の福祉施設等に寄贈しました。長年にわたる活動が評価され、令和元年度の「きれいな奈良県づくり功労賞」に輝きました。



上 車いすや歩行車など、132件を寄贈



下 令和元年度「きれいな奈良県づくり功労賞」表彰状



生徒会が中心となって
活動への想いを受け継ぐ！

経験豊富なボランティアなどの
地元の協力が生徒を後押し！

「アルミ缶の収益で福祉器具を贈ることは、いつもお世話になっている地域の皆さんに貢献できていると思うので、とてもやりがいを感じます」と、月ヶ瀬中学校の生徒会会長 畑家快翔さん。小中一貫校なので、小学生の頃から先輩たちが活動に取り組み姿に触れ、自然に参加できたといいます。副会長の西脇春菜さんは、「回収袋を配りに行った時、近所の方々に『いつもありがとうございます』と声をかけられたことがとてもうれしくて、地域のためになるんだから、もっと頑張ろうという思いが出てきました」と笑顔で話します。

また、一年生の時には、持ち込んだアルミ缶が、リサイクル工場でのように再生されるかを学習します。この工場見学は、生徒たちが活動の意義について改めて考える機会になり、環境に対する理解や意識の高まりにつながっています。



プレス機と並行して
人力でも空き缶を圧縮

愛歩21のメンバー、西浦範光さんは、かつて月ヶ瀬中学校の校長を務め、活動を長年間近で見してきました。「生徒と地域の方々のコミュニケーションもこの活動の良さの一つ。『子どもたちが頑張っているから手伝おう』と協力してくださる方も多く、とてもありがたかったです」。同じくメンバーで学校運営協議会委員の徳家眞さんも、活動に深く関わってきた一人。「月ヶ瀬地区は小さいので、みんな『自分たちの学校』という感覚があり、何かあれば助けようという気持ちがあります。この地域性も活動が長続きする要因でしょう」。同校の教諭として活動を支える堀口温秀さんは、「福祉機器の贈呈式を行う『社会福祉フェスティバル』を開催したり、福祉施設でお手伝いしたり、さまざまな学びの機会が増えています」と、生徒の成長に欠かせないと評価。

「24年間続けてきたアルミ缶回収活動をこれからも続けていきたい」、それが、生徒と先生、ボランティアの方々共通する想いです。「この活動が、どんな地域でも当たり前になって、もっと環境にやさしい世の中になってほしい」。そんな生徒の言葉に、一つの想いが地域に受け継がれることの素晴らしさを感じました。

一般社団法人

地域未来エネルギー奈良

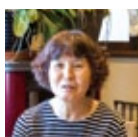
低炭素社会の実現は、 エネルギーの地産地消から

地球温暖化の原因とされるCO₂の削減には、再生可能エネルギーの普及が重要です。市民の出資によって地域資源を活かした再生可能エネルギーを導入することで、CO₂削減だけでなく地域活性化との両立を目指します。



一般社団法人 地域未来エネルギー奈良 理事長

しみず よりこ
清水 順子さん



一般社団法人 地域未来エネルギー奈良 理事

まえだ みよこ
前田 美代子さん



右が「恋の窪本部発電所」。

きっかけはF-I-T 地域活性化にも寄与

奈良市恋の窪にある「ならこーぷ」本部の屋根一面に、太陽光パネルが並んでいるのをご存じですか。2014年開設の「恋の窪未来発電所@ならこーぷ」と、18年開設の「恋の窪本部発電所」です。発電規模はそれぞれ50kWと15kWで、合わせて年間約7万kWh（一般家庭約16世帯分）を発電しています。

これら発電所の持ち主が、一般社団法人 地域未来エネルギー奈良。誕生のきっかけは、12年にスタートした再生可能エネルギーの固定価格買取制度（F-I-T）※です。理事長の清水順子さんにうかがいました。「それまでも、寄付を募って太陽光パネルを設置する市民共同発電所を4カ所に作っていましたが※。そこへF-I-Tが導入されて、大資本がメガソーラーをはじめ再生可能エネルギーの発電施設をどんどん造るわけです。誰のものでもない太陽光や風から得たエネルギーで発電して、これ売って儲けるわけですよ。F-I-Tの財源は消費者が負担しているのに、その利益は立地する地域には還元されません。それは問題じゃない？ っことで、市民や地域が関わる方法を模索しました」。こうして13年に設立された地域未来エネルギー奈良。CO₂削減に留まらず、安心で安全なエネルギーの地域自

給で得られた売電収入を、地域の持続可能な発展のための取り組みに還元する、新しいお金の流れをつくり、地域活性化に寄与しています。

※1：太陽光、風力、水力、地熱、バイオマスの再生可能エネルギーで発電した電気を、電力会社が一定価格で一定期間買い取ることを国が約束する制度。
※2：本紙第3号、「NPO法人サークルおてんとさん」の活動参照。

新たな事業モデルによる 再生可能エネルギーの導入

地域未来エネルギー奈良では、資金集めに新しい手法を導入。恋の窪未来発電所の設置に市民ファンドを活用したのです。「信託会社が市民の出資者を募り、うちはそこから融資を受けて、信託会社が出資者に配当を配るんです。当時としては最先端の手法でした」。また15年度からは、再生可能エネルギー「奈良モデルづくりプロジェクト」を実施。地域の公共施設や自然環境を活かした太陽光発電・小水力発電、木質バイオマスの利用促進などの再生エネルギー事業を支援することにより、市民や地域が主体となって事業を運営する手法を構築してきました。

今までに支援してきた再生エネルギー事業としては、宇陀市の地域コミュニティ再生拠点に太陽光パネルを設置した「うだ夢創の里市民共同発電所」、東吉野村に大正時代の水力発電所を復活させた「つくばね発電所」や、吉野町・川上村・



上 山添村の水車プロジェクト
下 東吉野村の「つくばね発電所」



ならコープ本部の屋根に設置された太陽光発電システム。左が「恋の窪未来発電所@ならコープ」、

山添村などの「水車プロジェクト」などがあり、これらに続く動きも生まれています。また、温泉施設に薪ボイラーを導入した天川村の事例を、他地域に活用する模索も続いています。



宇陀市の「うだ夢創の里 市民共同発電所」

人材育成・ネットワーク充実で さらなるモデル普及

こうした多様な活動ができるのも、太陽光発電や小水力利用、林業、環境ファンドなどのエキスパートが理事として在籍し、適材適所のアドバイザーができるから。さらに、「行政に働きかけたり、政策提言するのが達人な若者もいます」と、理事の前田美代子さん。「一般社団法人になる以前から、行政も交えた研究会を開いて連携してきました。その後もうちが核となって、地域と行政と、様々な環境活動をしてきた人を結びつける場を提供しています」。

既存の人脈やネットワークは大事にしなから、人材の育成にも余念があり

ません。その一つが「自然エネルギー学校・なら」です。自然エネルギー導入の基礎を学ぶほか、地域資源の活用による取り組み事例の研究も実施。これまで20歳から88歳まで、大学生や企業人、行政職員、議員など、延べ90名が受講しました。卒業後は、地元で太陽光発電を展開する人もあり、ネットワークも広がっています。

「今後は、引き続き奈良モデル普及の担い手を養成するとともに、連携を深めていきたいと思っています。将来的には、環境活動や再エネ事業をやりたい人がここへ来れば、ワンストップで、適切な紹介先につなげたり、コーディネートできるようなセンターにしたいという構想を持っています」と清水さん。

市民や地域が関わってエネルギーの地産地消を目指すことで、CO₂削減と地域活性化を両立させる新たな事業モデル。時代が要請するものとして、今後広まっていきそうです。



自然エネルギー学校・なら講座として岡山県西粟倉村の再エネの取り組みを視察

イオンリテール株式会社

イオンスタイル奈良

地元に寄り添う取組みで、
着実に効果をあげた半世紀

イオンのみなさんの名刺に描かれた緑色の木と「木を植えています」の言葉。
この精神のもと、店を挙げて身近な環境問題と向き合い、
地道な活動で成果を上げてきたイオンスタイル奈良。
小売業で初めて、環境省の「地域環境保全功労者表彰」を受賞しました。



イオンスタイル奈良 店長

やまだ ゆみ
山田 優美さん



イオンスタイル奈良
人事総務課長

たなか れいこ
田中 玲子さん



イオンスタイル奈良
同友店担当

きりやま しげお
桐山 誠夫さん



イオンスタイル奈良
CS同友店販促マネージャー

みやもと えいじ
宮本 英治さん

木を植える＝環境を守る会社
としてのDNAは
50年前から脈々と

近鉄のターミナル「大和西大寺駅」の北にある多機能・複合商業施設「ならファミリー」は、1972年オープン。イオンスタイル奈良（当初はジャスコ奈良店）は、その中核テナントとして、ショッピングセンターという生活に密着した業態を通じ、地域に暮らす人たちの環境意識・活動をリードしています。

その原点は60年代、岡田卓也現イオン名誉会長相談役が、イオンの前身である岡田屋の社長時代に、自宅の庭の南天が実をつけなくなったことで環境の悪化を実感したこと。その後、新規開店の際に店舗の周辺などで植樹を行うようになり、91年からは国内外で本格的な植樹活動を開始。植樹した数は11カ国で1212万本を超えています。（20年2月末現在）

「入社1日目から、イオンは自然環境を守る会社ですよ、CO2削減のために木を植える会社なんです」と説明しています。それが社員のDNAに刷り込まれて、環境活動に積極的に取り組めるんでしょう」と、人事総務課長の田中玲子さん。



木を植えています

私たちはイオンです

有料化の前から
レジ袋の削減に成功
次に目指すのはプラごみ削減

今年7月にレジ袋の有料化が義務化される前から同店のレジ袋の辞退率は高く、昨年度の平均の買い物袋持参率は88%！桐山誠夫さんはその要因を「91年から『買い物袋持参運動』を展開して、マイバスケットやマイバッグを販売し、レジ袋ご辞退のお声かけを地道に続けてきた成果です。レジ袋を辞退すると特典がつくスタンプカードもありましたが、10年ほど前には終了しました。何か得るからという次元ではなく、お客さまご自身が、環境に対する意識をより高められているからこそ、ご理解いただけていると思います」と分析。このレジ袋削減をきっかけに、プラスチックごみ削減という地球規模の問題を意識してもらえればと期待しています。

廃棄しない工夫の
積み重ねの成果と
それに水を差す新型コロナ

毎日大量に商品が届く店舗では、段ボール箱の処分が大きな課題でした。「現在では、イオン専用の繰り返し使える通い箱『折りコン』を使っています。多くの商品はこれに入れて納品されて、中味を取り出したらたんで配送セン



上 奈良イオンチアーズクラブのメンバーが、近畿地区を代表して全国大会(北海道)で壁新聞を説明。

下 佐保川で生物調査をする奈良イオンチアーズクラブ。子どもたちは様々な体験から学びを深めます。



ターに返却します。30年前に比べると、廃棄するダンボール箱は半分くらいになりました」と説明するのは、店長の山田優美さん。「あと、衣料品はハンガーにかけた状態で入荷します。ハンガーもリユースします」。

また、食品を扱う上で避けられないのが食品ロス。綿密な客数予測で、できるだけ廃棄が生じないように商品を発注しています。「量り売りや、ばら売りも効果がありますけど、今は新型コロナウイルスの影響でできないんです」。今、同店で工夫していることは、「見切り品を二カ所にまとめて『ここですよ』とアピールします。値引き商品がそれぞれの売り場に点在すると、埋もれて見つかられずに、廃棄されかねません」とのことです。

将来世代をサポートし、地域と関わり、ウィズ・コロナでのベストを模索

95年には全国の店舗で、地域の子どものための環境学習を支援する取組みがスタート。05年からは「イオンチアーズクラブ」として、地元の日常生活に根ざした題材で、学習や体験プログラムを実施しています。子どもたちが「吉野のバイオマス発電」「佐保川の水生生物」「奈良公園の鹿」など、奈良県らしいテーマで研究し、壁新聞にまとめて発表。奈良イオンチアーズクラブは

優秀な作品と表彰され、過去4回全国大会に参加しています。

このほか、毎月11日に従業員が店舗周辺の清掃を実施し、例年、奈良市内の清掃活動や、大和川一斉清掃にも参加。また、平城宮跡クリーン大会に当初から参加するなど、地域に密着した環境活動を展開しています。

「私たちは地域社会への貢献を重んじ、コミュニケーションを大事にしてきました。この半年それができなくて非常に辛いなか、『感染の危険があるにも関わらず、笑顔で商品を売ってください』と感謝します」というお声をたくさんいただきました。当たり前にお店を開けて商品を提供できることのありがたさを痛感し、使命感を新たにしました」と山田店長。今まさに、ウィズ・コロナの世界での「ベスト」を模索中です。



「クリーンアップならキャンペーン」の清掃活動に毎年イオンOB会とともに参加。

新型コロナウイルス感染予防のための「ごみの出し方」

ごみ収集車に積み込む際や運搬中に、ごみ袋が破れたり、破裂して中のマスク等が露出することがあります。

ごみを扱う収集運搬事業者や市町村職員の方への感染予防のため、ごみを出すにあたっては、自治体の分別・収集ルールを守るほか、以下の点に注意してください。



ごみを出すときに気をつけること

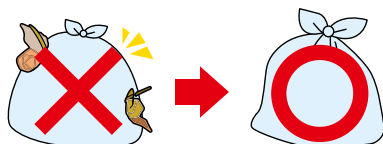
1

使用済みのマスク等は、ビニールの小袋に入れて封をするか、不要な紙で包んでから、ごみ袋に入れてください。

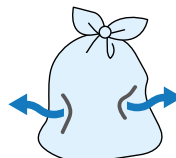


2

ごみ袋がやぶれないように



①ごみ袋の容量に注意して、ごみを入れすぎないようにしてください。



②ごみ袋の空気を抜いてください。



③ごみ袋はしっかりしばって封をしてください

3

ごみを出した後は、石けん等で手を洗いましょう。



マスクなど、ごみのポイ捨ては絶対にやめましょう!

水循環・森林・景観環境部 廃棄物対策課

総務部 知事公室 防災総括室

令和2年度「不法投棄ゼロ作戦」推進キャンペーン

11月9日(月)から15日(日)は、「不法投棄ゼロ作戦」強化週間です。

不法投棄をしない、させない、許さない!!

強化週間中は各市町村にて集中的な啓発活動及び特別パトロールを行います。

不法投棄ホットライン
(奈良県景観・環境総合センター)

こちらきゆうきゆうさんぱい

0120-999-381

お問い合わせ先

奈良県不法投棄ゼロ作戦推進キャンペーン実行委員会 事務局 (奈良県環境政策課内)
TEL.0742-27-8663



奈良県エコキャラクター
「な～らちゃん」